

すっかり秋も深まってきました。夏の間は犬の飼い主の多くが蚊の媒介する感染症、フィラリアの予防薬を定期的に投与していたと思います。しかし、10月に入って涼しくなり、「もう大丈夫」と思っている方も多いのではないのでしょうか。しかし、蚊がいなくなった後も、しばらく予防を心がけなければいけません。

フィラリアとは、心臓に寄生する白くて細長い虫のことです。感染した犬を吸血した蚊の体内で増殖し、その蚊が健康な犬を吸血する際に幼虫が体内に入り込みます＝イラスト。幼虫は皮下や筋肉で成長して血管を通り、最終的に心臓に寄生します。すると、心臓が正常に機能しなくなり、命に関わることもあるので注意しましょう。犬だけでなく、猫も感染することがあります。

予防薬として処方されている薬の多くは、体内で成長する幼虫を駆除し、心臓に寄生しないようにするものです。薬を中止すると、

フィラリア予防はいつまで？

幼虫が成長し、冬の間にも心臓に寄生することがあります。蚊がいなくなっても、約1カ月は薬を続けましょう。

(アニコム損保 獣医師 中山舞)

あ
ん
し
ん
ペ
ツ
ト
ラ
イ
フ
⑫①

フィラリアの感染経路

